

## 第2節

## 将来展望

## 1. 進学希望（小学生の中学受験を含めて）

小学生の4人に1人以上、中学生の2人に1人ほどが「大学（四年制）まで」「大学院（六年制大学を含む）」への進学を希望している。男子が女子より、四年制大学進学を希望しやすい。他方、小学生の3割弱、中学生の2割弱が、進路を「まだ決めていない」と回答し、小・中学生の2割前後は「高校まで」と回答している。高学歴志向が一層定着して、中学受験をする小学生も1割を上回る。

## ◆小・中学生の進学希望

良くも悪しくも学歴社会の定着が進むなか、少子化によって、大学全入時代さえ訪れようとしている。いま子どもたちは、どのような進学への希望を抱いているだろうか。

そこで、小学生と中学生に対して、「将来、どの学校まで進みたいか」をたずねた。この結果をみると、小学生では、「高校まで」が23.3%と最も多く、次いで「大学（四年制）まで」22.1%、「専門学校・各種学校まで」12.5%となっている。「まだ決めていない」者も28.5%いる（基礎集計表参照）。

一方、中学生では、「大学（四年制）まで」が34.5%と最も多く、「高校まで」20.0%、「専門学校・各種学校まで」18.0%となっている。「まだ決めていない」者は、16.2%にまで減少する（基礎集計表参照）。中学生になると、進学方向性がかなり明瞭になっていくといえる。

女子の高学歴化が進行していくなかで、性別でみると、小学生では、男女とも「大学（四年制）まで」が2割強と変わらないが、男子に「高校まで」の割合が高く、女子に「専門学校・各種学校まで」の割合が高くなっている。中学生になると、性差はしだいに明瞭になり、男子の4割が「大学（四年制）まで」を希望するのに対して、女子は「大学

（四年制）まで」と「専門学校・各種学校まで」の希望がともに3割弱となり、専門学校志向が強まっていくとみられる（図表省略）。

こうした性差は、学年の上昇につれてどんどんと明確になっていく。図3-2-1に示したように、男子では、「大学（四年制）まで」の希望がしだいに多くなり、中3生では半数弱にもなって、未決定者が減っていく。一方、図3-2-2にあるように、女子では、「大学（四年制）まで」と並んで「専門学校・各種学校まで」、さらに「短期大学まで」の希望が増え、未決定者が減っていく。ジェンダーの進路選択に対する影響は、依然根強いといえる結果である（高校生でも、性差の影響は強い。4項（P.106）で後述する\*）。

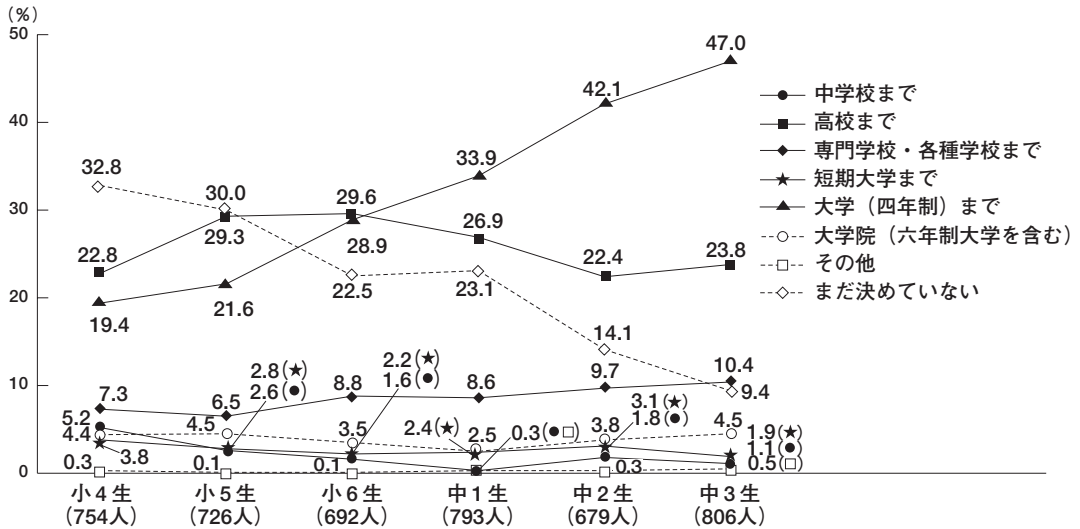
## ◆小学生の私立中学志向

大都市を中心にして、私立中学を目指す小学生が増えている。今回の調査でも、小学生全体の14.3%が、「受験する」と答えている。性差はほとんどない。

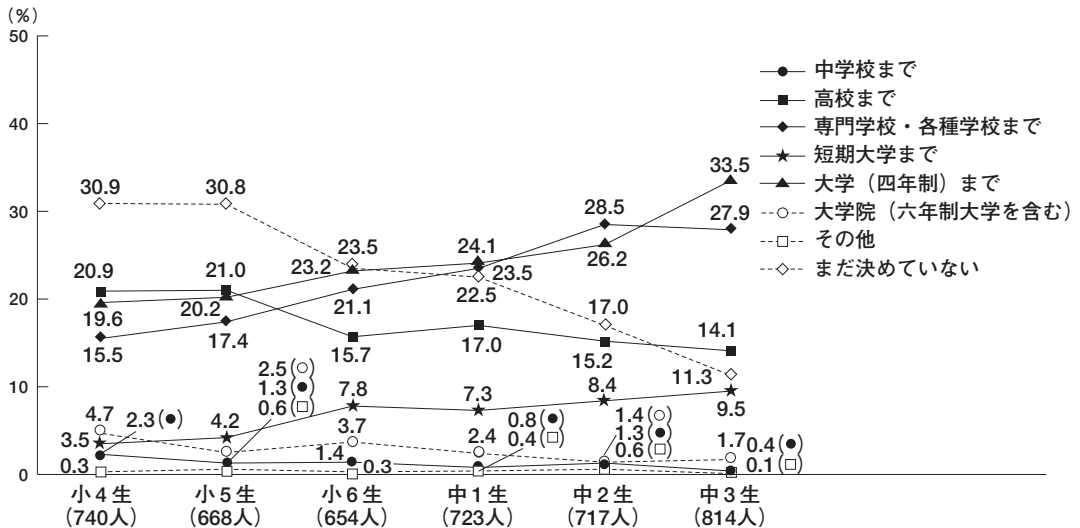
表3-2-1にあるように、大都市の小学生（23.8%）、また成績上位層（23.0%）に受験に挑む割合が高い。小6生になれば、早くも受験戦略の選択を求められるというのが、現状なのである。

\*高校生については、対象者に進学校・中堅校の生徒が多くなっているため、分析上配慮し、後述した。

■図3-2-1 男子の進学希望の学年変化（小・中学生、学年別）



■図3-2-2 女子の進学希望の学年変化（小・中学生、学年別）



■表3-2-1 中学受験の意思（小学生、学年別、地域別、成績別）

	学年			地域			成績		
	小4生 (1494人)	小5生 (1399人)	小6生 (1347人)	大都市 (1460人)	中都市 (1494人)	郡部 (1286人)	上位 (1257人)	中位 (1344人)	下位 (1259人)
受験する	14.7	15.7	12.6	23.8	10.6	8.0	23.0	10.6	7.1
受験しない	24.1	26.9	54.7	34.5	35.1	34.7	33.0	35.0	35.8
まだ決めていない	58.6	55.8	29.9	38.0	52.8	55.6	42.8	53.1	54.9
無回答・不明	2.6	1.7	2.7	3.8	1.5	1.7	1.2	1.3	2.2

注) 成績（小学生）は、国語・算数（数学）・理科・社会の自己評価の合計点によって3区分した

## 2. 将来の職業について(1)

将来、なりたい職業が「ある」と回答する子どもは、小・中・高校生で大きな差はなく、平均して6割台である。「ある」という者のうち、「どうしたらその職業につくことができるのかを調べることがある」者は、高校生が8割強なのに対し、中学生は6割、小学生は5割。一方、「その職業につくために努力していることがある」者は、高校生が6割弱にとどまるのに対し、中学生は6割、小学生は7割弱と高くなっている。

### ◆ 将来なりたい職業

青年のニート・フリーター問題が深刻化し、マスコミをにぎわせている昨今、子どものころからの「キャリア教育」が求められている。では、実際子どもたちは、なりたい職業があり、そのための準備をしているといえるのだろうか。

まず、「将来、なりたい職業があるか」をたずねた。この結果をみると(図3-2-3)、小学生では、「ある」という回答が63.4%と半数を超え、中学生でも62.0%、高校生でも66.8%とあまり変わらない。職業の内容は別にして、大半の子どもには、なりたい職業があるといえる。

学校段階ごとに、男女を比べてみると、依然就業が厳しいといわれる女子に、なりたい職業が「ある」者が多く、小学生では69.4%、中学生では67.6%、高校生では73.2%と、いずれも男子の割合を10ポイント以上上回っている。一方、男子は、小・中・高校生それぞれで、57.8%、56.4%、61.1%であり、なりたい職業が「ある」者は、6割前後にとどまる。

地域別にみても、なりたい職業が「ある」という回答の割合は、各学校段階で女子に高くなっている。中学生を例にとると、大都市で男子55.9%<女子66.4%となっており、中都市でも男子57.7%<女子70.1%、郡部で55.6%<女子66.5%と女子のほうが高い割合になる(図表省略)。地域的な環境にかかわ

らず、女子にはなりたい職業を考えやすい条件があるといえよう。

### ◆ なりたい職業を調べる

それでは、なりたい職業がある子どもは、どうしたらその職業につくことができるのかを調べることがあるのだろうか。図3-2-4にその結果を、学校段階別・性別に示した。これをみると、高校生女子の割合が最も高く、9割弱にもおよび、次いで高校生男子が8割弱、中学生女子が6割強となっている。

学校での職業理解の活動もあるためか、学校段階が上になるほど、また、女子の生徒ほどよく調べていることがわかる。

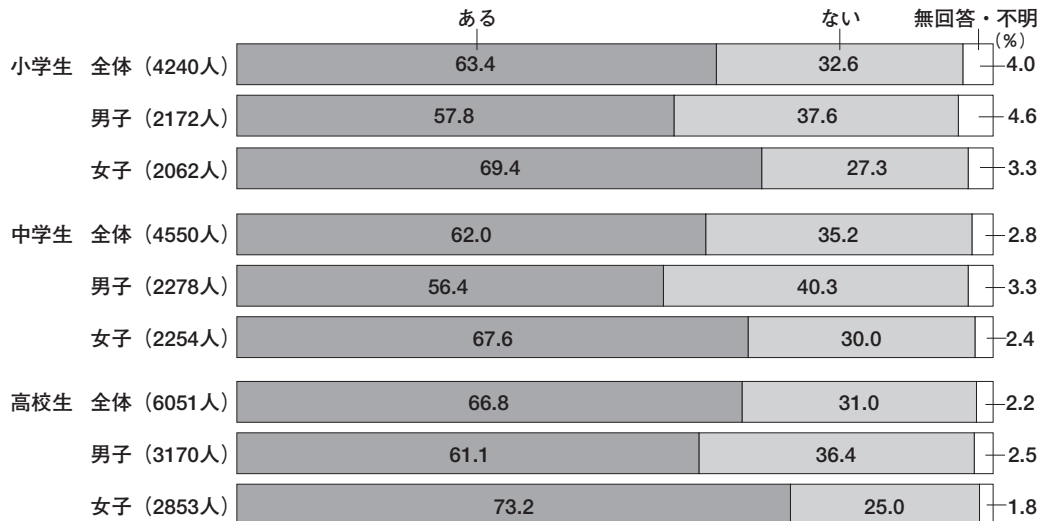
### ◆ なりたい職業につくための努力

だが将来、「その職業につくために努力していることがある」の回答では、学校段階の差がほとんどなくなってくる。

図3-2-5に示したように、どの学校段階でも努力している子どもは、6割前後から7割程度になっており、小学生男子で最も割合が高くなっている。

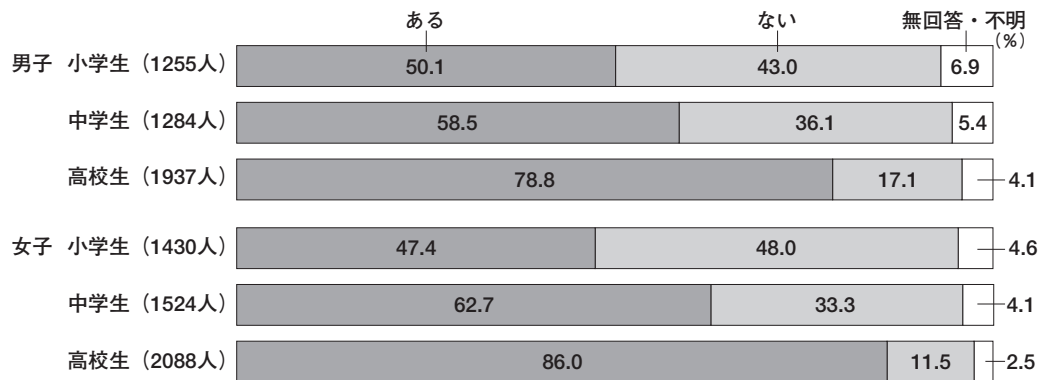
この結果からみると、職業を調べはしても、具体的な職業観を育成する活動にまではつながないように見え、とりわけ中・高生での自発的な職業観育成の取り組みが求められるという結果である。

■図3-2-3 なりたい職業（学校段階別、性別）



■図3-2-4 なりたい職業について調べる（学校段階別、性別）

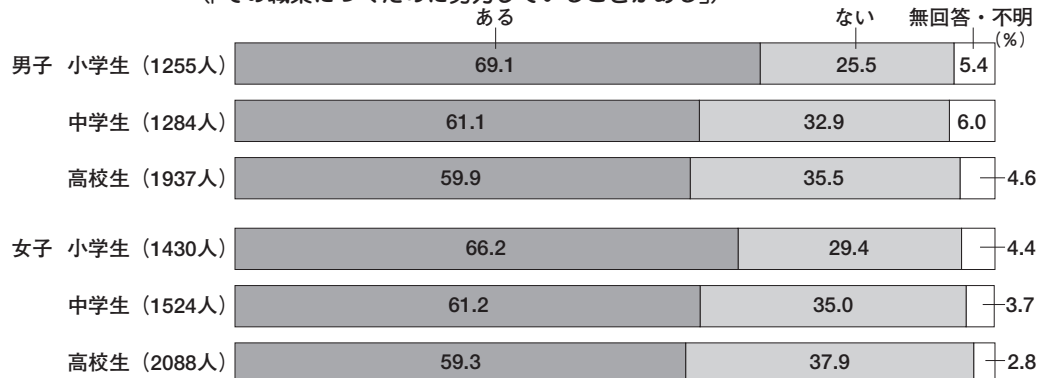
（「どうしたらその職業につくことができるのかを調べることがある」）



注) なりたい職業が「ある」と回答した者のみ

■図3-2-5 なりたい職業についての努力（学校段階別、性別）

（「その職業につくために努力していることがある」）



注) なりたい職業が「ある」と回答した者のみ

### 3. 将来の職業について (2)

実際に将来なりたい職業にあげられているものの第1位は、小・中学生の男子で「野球選手」、女子で「保育士・幼稚園の先生」。高校生になると、男女とも「学校の先生」である。小学生の職業へのあこがれが、中・高生になるにつれて、しだいに現実的で安定した職業へと変わっていく。

#### ◆ なりたい職業のベスト20

ニートやフリーターの青年に共通して指摘される問題は、働く意欲がないばかりでなく、多様な仕事のイメージが乏しいということである。未来を担う子どもたちは、なりたい職業としてどのような仕事をあげていくのだろうか。

表3-2-2、表3-2-3、表3-2-4は、それぞれ小・中・高校生になりたい職業を自由に記述してもらい、その結果を性別ごとに上位20位までまとめたものである。例えば、「保母」「保育士」「幼稚園教師」などの回答は類似した職業とみなして、「保育士・幼稚園の先生」と整理している。

#### ◆ 小学生のなりたい職業

小学生男子では、「野球選手」「サッカー選手」など、スポーツ選手が上位に並んでいる。ヒーローを目指して、スポーツに励む姿は今も変わらないのか。「医師」などの専門職、「大工」「調理師・コック」などの技能職、また「ゲームクリエイター・ゲームプログラマー」などの技術職も人気がある。

小学生女子では、「保育士・幼稚園の先生」(第1位)、「看護師」(第2位)、「美容師・理容師」(第7位)といった従来からの女性の専門性を活かした職業が相変わらず人気が高い。新たに「ペットショップ」「トリマー」といった動物相手の職業も目につく。

#### ◆ 中学生のなりたい職業

中学生男子でも、スポーツ選手の人気は高いが、第3位以下に、「学校の先生」「医師」「公務員」など安定した職業が並ぶ。「車の整備士・カーデザイナー」といった男子特有の職業もあがる。

中学生女子では、小学生と同様、女性の特性を活かした職業があがり、「保育士・幼稚園の先生」「看護師」「マンガ家・イラストレーター」がベスト3である。「ファッションデザイナー・デザイナー」「介護福祉士・ホームヘルパー」もあがっている。

#### ◆ 高校生のなりたい職業

高校生男子では、「学校の先生」「医師」「理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士」など、いわゆる「し(師、士)」のつく資格の必要な安定した職業に人気がある。「公務員」「法律家」「コンピュータープログラマー・システムエンジニア」も人気が高い。

高校生女子でも、同様に、「保育士・幼稚園の先生」「看護師」「薬剤師」などといった、「し」のつく仕事に人気がある。「理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士」や「公務員」も人気が高い。

世評とは違い、堅実で安定した専門性の高い、性別によって異なる職業が希望されているといえる。

\*高校生は、対象者に進学校や中堅校の生徒が多くなっているため、職業ランキングに影響がある。

■表3-2-2 小学生のなりたい職業ベスト20（性別）

小学生・男子 (2172人)			小学生・女子 (2062人)		
	人	%		人	%
1 野球選手	220	10.1	1 保育士・幼稚園の先生	190	9.2
2 サッカー選手	165	7.6	2 看護師	95	4.6
3 医師	41	1.9	2 マンガ家・イラストレーター	95	4.6
4 研究者・大学教員	40	1.8	4 芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	85	4.1
4 大工	40	1.8	5 ケーキ屋・パティシエ	81	3.9
6 マンガ家・イラストレーター	30	1.4	6 学校の先生	66	3.2
7 ゲームクリエイター・ゲームプログラマー	29	1.3	7 美容師・理容師	50	2.4
8 調理師・コック	25	1.2	8 医師	47	2.3
9 バスケット選手	22	1.0	9 獣医師	42	2.0
10 警察官	21	1.0	10 動物の訓練士・動物園などの飼育員	38	1.8
10 消防士(レスキュー・救急救命士)	21	1.0	11 ファッションデザイナー・デザイナー	33	1.6
12 建築家	18	0.8	12 ペットショップ	32	1.6
12 サラリーマン	18	0.8	13 花屋	28	1.4
14 芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	17	0.8	14 音楽家(ピアニスト・バイオリニスト)	26	1.3
15 法律家(弁護士・裁判官・検察官)	16	0.7	15 バン屋	25	1.2
15 自衛官	16	0.7	16 作家・小説家	24	1.2
17 学校の先生	15	0.7	17 バレーボール選手	17	0.8
18 公務員	14	0.6	18 トリマー	16	0.8
18 ケーキ屋・パティシエ	14	0.6	19 薬剤師	15	0.7
20 水泳選手	13	0.6	19 美術家(画家・カメラマン)	15	0.7
20 飲食店主・店員(接客)	13	0.6	19 警察官	15	0.7
20 電車(鉄道運転士・車掌)	13	0.6			

■表3-2-3 中学生のなりたい職業ベスト20（性別）

中学生・男子 (2278人)			中学生・女子 (2254人)		
	人	%		人	%
1 野球選手	85	3.7	1 保育士・幼稚園の先生	218	9.7
2 サッカー選手	51	2.2	2 看護師	86	3.8
3 学校の先生	50	2.2	3 マンガ家・イラストレーター	85	3.8
4 医師	40	1.8	4 芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	76	3.4
5 公務員	38	1.7	5 美容師・理容師	75	3.3
6 技術者・エンジニア・整備士	31	1.4	6 学校の先生	56	2.5
7 車の整備士・カーデザイナー	30	1.3	7 動物の訓練士・動物園などの飼育員	45	2.0
8 ゲームクリエイター・ゲームプログラマー	29	1.3	8 ケーキ屋・パティシエ	40	1.8
8 芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	29	1.3	9 ファッションデザイナー・デザイナー	35	1.6
10 法律家(弁護士・裁判官・検察官)	26	1.1	10 通訳・翻訳	27	1.2
11 研究者・大学教員	25	1.1	11 獣医師	25	1.1
11 調理師・コック	25	1.1	12 介護福祉士・ホームヘルパー	23	1.0
13 コンピュータープログラマー・システムエンジニア	24	1.1	13 調理師・コック	22	1.0
14 サラリーマン	21	0.9	14 トリマー	21	0.9
15 警察官	19	0.8	14 警察官	21	0.9
15 消防士(レスキュー・救急救命士)	19	0.8	16 作家・小説家	20	0.9
15 電車(鉄道運転士・車掌)	19	0.8	17 薬剤師	19	0.8
15 大工	19	0.8	18 フライアテンダント	16	0.7
19 バスケット選手	18	0.8	19 美術家(画家・カメラマン)	15	0.7
20 建築家	17	0.7	20 ネイル・メイクアーティスト	14	0.6

■表3-2-4 高校生のなりたい職業ベスト20（性別）

高校生・男子 (3170人)			高校生・女子 (2853人)		
	人	%		人	%
1 学校の先生	211	6.7	1 学校の先生	177	6.2
2 公務員	150	4.7	2 保育士・幼稚園の先生	173	6.1
3 医師	91	2.9	3 看護師	157	5.5
4 理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士など	67	2.1	4 薬剤師	90	3.2
5 薬剤師	65	2.1	5 理学療法士・臨床検査技師・歯科衛生士など	82	2.9
6 警察官	60	1.9	6 公務員	75	2.6
7 研究者・大学教員	53	1.7	7 医師	61	2.1
8 技術者・エンジニア・整備士	47	1.5	8 栄養士	48	1.7
9 法律家(弁護士・裁判官・検察官)	39	1.2	9 介護福祉士・ホームヘルパー	45	1.6
9 消防士(レスキュー・救急救命士)	39	1.2	10 カウンセラー・臨床心理士	44	1.5
11 芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	38	1.2	11 美容師・理容師	42	1.5
12 コンピュータープログラマー・システムエンジニア	36	1.1	12 芸能人(歌手・声優・お笑いタレントなど)	37	1.3
13 車の整備士・カーデザイナー	32	1.0	13 マンガ家・イラストレーター	36	1.3
14 建築家	30	0.9	14 法律家(弁護士・裁判官・検察官)	35	1.2
15 保育士・幼稚園の先生	29	0.9	15 フライアテンダント	29	1.0
16 調理師・コック	28	0.9	16 警察官	26	0.9
17 介護福祉士・ホームヘルパー	24	0.8	17 通訳・翻訳	25	0.9
18 獣医師	22	0.7	17 研究者・大学教員	25	0.9
18 公認会計士・税理士	22	0.7	17 グランドホステス	25	0.9
18 スポーツトレーナー・インストラクター	22	0.7	20 観光業	24	0.8

## 4. 将来の職業について (3)

なりたい職業が「ある」という子どもをみると、小学生では成績上位層が高い割合を示すが、中・高生になるとほとんど差はなくなる。他方、職業について「どうしたらその職業につくことができるのかを調べることがある」「その職業につくために努力していることがある」者は、小・中学生では成績上位層、高校生では進学校の生徒に多い。その背景に、高い進学希望が認められる。また、なりたい職業が「ある」子どもは、家庭でも将来や進路のことをよく話している。

### ◆成績・高校偏差値層と職業の希望

希望する職業の内容をみると、学年の上昇に応じた堅実な仕事への変化は、子どもの学力とも関連しているように思える。成績や高校偏差値層と、なりたい職業やそのための活動との関係をみてみたい。

表3-2-5は、なりたい職業とそれを調べ、なるための努力をする子どもが、どのような成績や高校偏差値層にあるのかをまとめたものである。

小学生では、なりたい職業が「ある」と回答する者は、上位層で7割なのに対して、中位・下位層では6割前後。また、「ある」と答えた者のうちで、職業について「どうしたらその職業につくことができるのかを調べることがある」者は上位層で6割弱、「その職業につくために努力していることがある」者は、8割弱と高くなっている。

しかし、中学生になると、なりたい職業が「ある」という者はどの成績層でも6割強と変わらない。また高校生も、どの偏差値層でも7割弱であり、進路多様校の生徒も具体的な職業を描きやすいと読み取れる。

この背景には、表3-2-6にあるように、高校生の場合、進学校で男女とも「大学（四年制）まで」（高2生で、男子53.6%、女子64.3%）ばかりでなく、「大学院（六年制大学を

含む）」進学（高2生で、男子35.1%、女子25.2%）さえ希望する、依然として長い学業期間があるためだと思われる。

その一方で、表3-2-5にあるように、なりたい職業を調べる者も、またなりたい職業のために努力する者も、成績上位層に比較的高くなっている。高校生についていえば、なりたい職業を調べる者は進学校・中堅校が8割強、なりたい職業のために努力する者は進学校が6割強となり、他の偏差値層と差がある。中学生でも成績上位層に、どちらも多い。なりたい職業を実現するには、勉学も必要になるといえるのだろう。

### ◆将来・進路についての親子の会話との関連

さらに、なりたい職業があり、それを調べ、その職業につくために努力している子どもは、そうでない子どもに比べて学校段階別・性別を問わず、父親あるいは母親と将来や進路について会話する機会（「よく話をする」＋「ときどき話をする」割合）がきわめて多くなっている（表3-2-7）。

学校での多様な進路指導があるとはいえ、親子で将来の子どものあり方を語ることは重要なキャリア教育の入り口になっているともみられる結果である。

■表3-2-5 なりたい職業（学校段階別、成績・高校偏差値層別）

		小学生			中学生			高校生		
		上位 (1257人)	中位 (1344人)	下位 (1259人)	上位 (1581人)	中位 (1485人)	下位 (1412人)	進学校 (2494人)	中堅校 (2364人)	進路多様校 (1193人)
将来なりたい職業は	ある	70.6	61.8	59.9	62.7	63.3	60.3	65.6	67.1	68.7
	ない	26.6	34.8	36.4	35.7	34.2	35.3	32.5	30.3	29.3
	無回答・不明	2.8	3.3	3.7	1.6	2.5	4.4	1.8	2.6	2.1
〔「ある」と答えた人のみ〕										
どうしたらその職業 につくことができる のかを調べることが	ある	56.2	46.5	40.8	63.4	60.6	58.0	84.3	84.7	74.8
	ない	39.4	47.1	53.7	32.9	35.2	35.7	13.0	11.5	21.6
	無回答・不明	4.4	6.5	5.4	3.7	4.1	6.3	2.7	3.7	3.5
その職業につくため に努力していること が	ある	76.2	65.1	59.8	64.6	61.2	57.3	64.3	57.7	54.1
	ない	19.7	30.1	35.0	31.4	34.3	36.9	32.7	38.1	41.9
	無回答・不明	4.1	4.8	5.2	4.0	4.6	5.9	3.0	4.2	4.0

注) 成績（小・中学生）は、国語・算数（数学）・理科・社会・英語（中学生）の自己評価の合計点によって3区分した

■表3-2-6 高校偏差値層と進学希望（性別、学年別）

	男子						女子					
	進学校		中堅校		進路多様校		進学校		中堅校		進路多様校	
	高1生 (588人)	高2生 (720人)	高1生 (621人)	高2生 (626人)	高1生 (317人)	高2生 (298人)	高1生 (518人)	高2生 (659人)	高1生 (557人)	高2生 (545人)	高1生 (282人)	高2生 (292人)
高校まで	0.3	1.1	5.3	5.9	22.4	14.8	0.2	0.5	4.7	6.4	12.4	15.1
専門学校・各種学校まで	1.9	1.4	13.2	12.0	24.6	30.5	3.7	2.9	16.7	17.6	39.7	42.8
短期大学まで	0.0	0.0	0.8	0.6	1.9	0.3	1.2	2.0	5.9	8.4	12.8	14.0
大学（四年制）まで	66.3	53.6	59.4	64.7	29.0	38.6	70.8	64.3	53.1	50.6	18.1	15.1
大学院（六年制大学を含む）	24.1	35.1	8.4	6.7	1.9	1.7	17.0	25.2	5.4	6.8	0.7	0.0
その他	0.2	0.3	0.3	0.5	0.3	0.7	0.2	0.2	0.9	0.4	0.0	0.0
まだ決めていない	6.0	7.2	11.0	6.4	18.0	11.1	5.6	4.4	12.6	8.1	14.5	11.6
無回答・不明	1.2	1.3	1.6	3.2	1.9	2.3	1.4	0.6	0.7	1.7	1.8	1.4

■表3-2-7 なりたい職業と将来・進路についての親子の会話（学校段階別、性別）

	小学生				中学生				高校生				
	男子		女子		男子		女子		男子		女子		
	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親	父親	母親	
将来なりたい職業は ※1	ある	42.7	50.8	34.0	53.7	40.7	54.8	33.3	64.8	48.6	63.9	41.7	76.0
	ない	18.8	23.9	19.7	32.5	24.6	39.7	24.5	50.2	34.0	46.4	36.3	66.6
〔「ある」と答えた人のみ〕													
どうしたらその職業 につくことができる のかを調べることが ※2	ある	52.1	60.4	39.1	63.4	45.9	59.7	37.9	70.7	50.7	66.6	42.8	77.6
	ない	32.4	40.2	29.7	44.6	30.8	47.0	24.1	53.1	37.5	50.8	32.9	65.8
その職業につくために 努力していることが ※3	ある	47.3	55.5	39.4	60.6	45.5	58.6	38.3	68.6	53.6	67.7	46.4	80.7
	ない	31.6	37.5	23.6	40.2	29.9	47.2	24.0	57.7	39.0	57.1	34.1	69.0

注) 「父親」あるいは「母親」と将来や進路のことを話す（「よく話をする」＋「ときどき話をする」）の%

注) サンプル数は以下のとおり

※1 小・男子（ある1255人、ない817人、以下同様）、小・女子（1430人、563人）、中・男子（1284人、918人）、中・女子（1524人、677人）、高・男子（1937人、1154人）、高・女子（2088人、713人）

※2 小・男子（ある629人、ない540人、以下同様）、小・女子（678人、686人）、中・男子（751人、464人）、中・女子（955人、507人）、高・男子（1526人、331人）、高・女子（1796人、240人）

※3 小・男子（ある867人、ない320人、以下同様）、小・女子（947人、420人）、中・男子（785人、422人）、中・女子（933人、534人）、高・男子（1160人、687人）、高・女子（1238人、791人）



## 5. 将来の職業について(4)

中・高生に、職業の選択において重視することをたずねると、学校段階・学年による差はあまりなく、「自分の好きなことが生かせる」「安定していて長く続けられる」割合が高くなって、6割から7割前後におよぶ。「休みが多い」「大きな会社である」については1割前後と、あまり重視されない。

### ◆職業選択の基準と学年

雇用不安が喧伝され、若者の就業問題がクローズアップされている。中・高生は、仕事につく基準として何を重視しているだろうか。安定と起業、個性重視と社会貢献などといった対照的な7つの項目をあげて、回答を求めてみた。

図3-2-6は、中・高生の学年別に回答結果を示したものである。「とても大切」と回答した者の割合を数値で示した。

この図をみると、中1生から高2生まで職業観に変化のないことがわかる。適性に見合った就業が強調されるなかで、「自分の好きなことが生かせる」ことがいずれの学年でも最も高く、7割前後。同様に「安定していて長く続けられる」ことの回答率も6割前後と高くなっている。

だが一方で、「休みが多い」や「大きな会社である」ことはどの学年でも1割前後と意外に大切にされていない。生徒たちは、終身雇用制の利得面だけを追い求めているわけではないようだ。

### ◆職業選択の性差

それでは、職業観には性差があるのか。図3-2-7は学校段階別に男女の結果（「とても大切」＋「まあ大切」の割合）をまとめたものである。これをみると、「自分の好きなことが生かせる」「安定していて長く続けられる」「収入が多い」という項目では、男女

ともに高い割合となっている。

これに対して、「多くの人の役に立つ」では、中・高生とも女子が男子より高くなっている。反面、「休みが多い」や「大きな会社である」ことは、中・高生とも男子の回答が女子より高くなる。先にみた性別ごとの希望職業と重ねると、女子の社会関係志向と男子の安定重視志向とが認められ、興味深い。

最後に、「独立して自分だけでできる」という項目は、全体に回答率が低い。だが他と異なり、中学生では性差がないものの、高校生になると男子が女子をかなり上回る。安定した仕事を求めやすい男子だが、自律への意志もかなりあるといえそうだ。

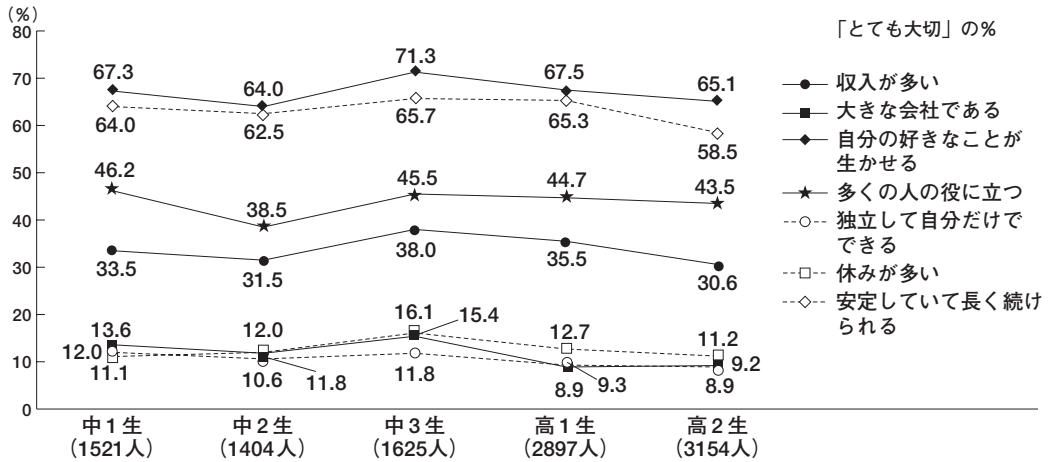
### ◆成績・高校偏差値層との関連

最後に、職業選択の基準と成績や高校偏差値層との関連をみた(表3-2-8)。結論からいえば、進学・就職のイメージには違いがあるとしても、職業観には大きな差が認められない。

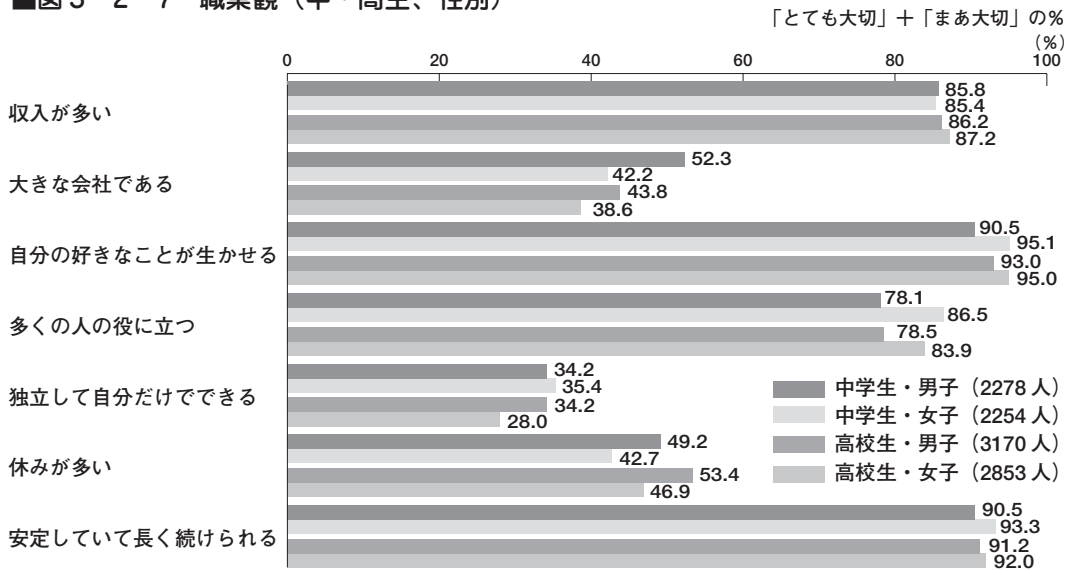
たとえば、中学生段階では成績上位層が「大きな会社である」をやや望んでいても、高校生段階では進路多様校の生徒に「大きな会社である」の希望が多くなる。つまり、職業イメージがしだいに具体的になることで、その理解も変わっていくとみられる。

この結果からみれば、成績による出世観だけではない多様な職業観が形成され始めているのかもしれない。

■図3-2-6 職業観（中・高生、学年別）



■図3-2-7 職業観（中・高生、性別）



■表3-2-8 職業観（中・高生、成績・高校偏差値層別）

職業観	中学生			高校生		
	上位 (1581人)	中位 (1485人)	下位 (1412人)	進学校 (2494人)	中堅校 (2364人)	進路多様校 (1193人)
収入が多い	88.6	84.6	83.7	85.0	86.7	89.7
大きな会社である	51.1	46.1	44.2	38.3	42.0	46.2
自分の好きなことが生かせる	95.5	92.9	89.8	94.4	93.2	94.2
多くの人の役に立つ	83.6	83.7	79.6	79.1	82.5	82.0
独立して自分だけでできる	33.1	34.9	36.2	30.8	31.7	31.5
休みが多い	50.0	43.1	44.8	48.4	51.4	52.4
安定していて長く続けられる	93.2	91.9	90.6	90.6	91.0	94.1

注) 成績（中学生）は、国語・数学・理科・社会・英語の自己評価の合計点によって3区分した  
「とても大切」 + 「まあ大切」の%